

こころのふれあいを何よりも大切に



医療法人 厚生会  
道ノ尾病院会報

2016 Vol.20  
Shinsei

2016年11月15日 発行

医療法人 厚生会 道ノ尾病院 「新星」Shinsei 編集部  
〒852-8055 長崎市虹が丘町1番1号  
TEL 095-856-1111 FAX 095-856-4755

# 新星

題字：松本 寿美子



## CONTENTS

- 2 新しい内科医の紹介／部署紹介③
- 3 デイケアより活動報告
- 4、5 災害派遣精神医療チーム(DPAT)の活動報告
- 6 入院について③
- 7 事業所紹介⑦／お葉だより
- 8 いざはやミニトライアスロンリレー大会に参加して /
- 8 長崎くんち上町コココデショに挑戦

## 基本理念 患者第一主義

### 基本方針

- 挨拶と笑顔をもって皆様（患者・家族）に接します
- 疾病や治療に対して十分な説明と同意に基づき、患者本位の医療を提供します
- 患者の権利を認識し、尊重します
- 地域における責務を認識し、開かれた病院を目指します
- 職員研修を行い、常に研鑽に努めます
- 健全な病院経営に努めます
- 患者の社会復帰に努めます

## 新しい内科医のご紹介

内科医 木場 隆司

### 専門知識を活かしながら、 地域医療に貢献していきたい



病棟スタッフとも仲が良い木場先生

この度、平成28年5月16日付で、道ノ尾病院に内科医として赴任いたしました。出身は熊本市南区です。(先般の大地震の折には、たまたま、帰省しており、その恐ろしさを経験しました。)

長崎に来たのは長崎大学入学からで、卒業後、血液内科(長崎大学 原研内科)に入局し、血液内科を主に内科医として長崎大学病院をはじめとして、主に県内の総合病院等で勤務をして参りました。

医師としての転機は、平成19年に医療法人清潮会 三和中央病院に勤務となった折です。それ以前、血液内科を

専門にしていた頃には、患者さんのうつ状態、せん妄などの様々な精神状態に対して、対応に苦慮した苦い思い出があります。同院では、精神科各先生方のご指導をいただきながら実際に精神科の診療を経験することができました。在任中には、精神保健指定医の資格も取得しました。

その後は、精神科医(時々、内科医)として、認知症診療や一般病院でのリエゾンなどを経験し、その難しさや問題点などを、実感することとなりました。今後は、これまでの経験を生かして、地域医療と当院の発展に貢献できればと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

連載第3回目はセンター5病棟のご紹介です

## 部署紹介コーナー



### スタッフ紹介

看護師長：1名 看護主任：2名  
看護スタッフ：20名 看護アシスタント：5名  
介護福祉士：1名 精神保健福祉士(兼務)：3名  
作業療法士(兼務)：1名  
病床60床 1日平均患者数：59.4名  
H28.9月末

#### 部署の特徴(方針・特色・病棟目標モットー・看護体制)

男性閉鎖の回復期治療病棟で、統合失調症・双極性感情障害・知的障害・認知症等の様々な疾患の患者様が入院されており、薬物療法を中心に作業療法や社会生活技能訓練(SST)を行っています。“事故ゼロ”を目標に、“思いやりの看護”で患者様に接するよう心がけています。

#### スタッフの資格

看護師、准看護師、介護福祉士、BLSヘルスケアプロバイダー、摂食嚥下コーディネーター、自動車免許(普通・大型)、日本習字正師範、中学・高等学校教諭免許一種(音楽)、アマチュア無線、パワーシャベル運転免許、漢字検定3級、小型車両建設機械3トン未満

#### スタッフの趣味

音楽鑑賞、映画鑑賞、ピアノ、釣り、子育て、貯蓄、ドライブ、スノーボード

#### 部署の研究・業績

「長期入院患者にSSTがもたらした効果と課題」(2012・茂田)

「骨折の増加に直面して」(2014・山本)

「精神科病棟での入院環境における安全管理に向けた検討」(2016・近藤)

## 虹・わかばグループ 新聞社見学体験記

### ようこそ！長崎新聞社へ

虹・わかばグループでは、8月30日(火)に社会生活体験の一環として、深松デイケア長、スタッフ他、デイケア利用者の15名で長崎新聞社、平和公園、平和文化会館の見学学習を行いました。

地域で暮らすデイケア通所の利用者(メンバー)の中には、病状などにより社会情勢に無関心で、TVも見えない、新聞さえ読まない方も見受けられます。そこで、メンバーに自分の周りの社会情勢に興味を持ってもらうきっかけとなればと、長崎新聞社で見学学習を行いました。新聞が出来るまでを学習した後、実際に新聞社の玄関で記念写真を撮ってもらい、編集を行い

見学新聞として印刷をしました。自分たちが新聞に掲載された記事を見て、皆はとても嬉しそうでした。

印刷工場では、機械の大きさや使用する紙の量にも驚きました。メンバーからは、「新聞紙が使い古しの紙で再利用して出来ている事に驚きました。」「新聞を読もうと思います。」などの感想が聞かれました。



その後、平和公園、平和文化会館へも足を運び、戦争や原爆の悲惨さを改めて感じ、平和の尊さも学びました。参加したメンバーやスタッフにとって、この日は学びが多い一日になったと思います。

## 歯磨きについての講義

デイケアでは、歯の衛生に関心を持ってもらう目的で8月26日(金)、歯科衛生士の小嶺さんから、毎日の歯磨きについて講義をしてもらいました。講義では歯磨きのポイント、歯ブラシの動かし方、口臭に気がついた経験、歯がないと老けて見える、見た目が大事などの話を聞き、歯を丈夫に保つために歯磨きの大切さを学びました。メンバーからは、「虫歯は痛かもんね。」「入れ歯は食べづらいよ」などの感想が聞かれました。講義の後は、食後に歯磨きをしているメンバーが増えたように感じています。



## 就労支援

9月20日に長崎県障害者就職面接会(長崎労働局)があり、デイケアとしては初参加しました。企業30社あり200名を超える方が面接に来ており倍率の高さが伺えました。

通所者のAさんは、就職支援プログラムでビジネスマナーや面接の練習を重ねてきました。本番では、一生懸命に面接官と受け答えをした姿が印象的でした。

Aさんの疲れた表情を見て「落ち着いて深呼吸しましょう。」と伝え、私も一緒に面接を受けているような高揚感がありました。

“就職したいけど障害があつてとても悩んでいる方”がおられましたが、一度、デイケアに足を運んでみてください。

デイケア 白井



## 熊本地震における災害派遣精神医療チーム(DPAT)に参加して

2016年6月18日～25日 8日間滞在

### 精神科医 院長 松本 一隆

平成28年4月14日、16日の熊本地震を受け、日本精神科病院協会より各都道府県を通して会員病院に災害派遣精神医療チーム(DPAT)の派遣依頼があり、6月18日(土)～6月25日(土)まで長崎DPAT(第9班)の一員として長崎県の職員3名と熊本の被災地支援に参加してきました。長崎の民間病院では三和中央病院と当院のみで、当院では、医師は、業務の関係上

前記期間を3名分担で、看護師は1名が期間中通し参加しました。私は6月18日～20日の3日間で、18～19日は第8班からの引き継ぎ後、被災が大きかった熊本城、益城町、阿蘇大橋、阿蘇神社などの視察を行い、20日より長崎DPATの担当である熊本市内の各避難所(主に体育館や公民館)支援を、7月より支援を行う熊本DPATチームと共に行いました。地震発生より2ヶ

月経過していたこともあり、ある程度避難所生活に慣れてこられていたり、日中外出している方も多く、面接や、緊急に医療機関受診を要する方はおられませんでした。地震発生時に、ドアが開かなくなり、救助されたというトラウマ体験により自宅に戻る恐怖を語る方もおられた。改めて自然災害の恐ろしさを感じました。

### 精神科医 副院長 立木 均

平成28年4月、熊本は震度7の地震に襲われました。

5月某日、島原の温泉サウナ、熊本弁の会話が聞こえてきました。ひと方は鉄工所で大きな鉄骨を作っている会社のA社長さん、もうひと方は細かなねじを作る会社のB社長さん。地震で崩れた大きな鉄骨を、またクレーンで積みなおさなきゃならない苦勞をAさんが披露すると、Bさんは、いろんな種類の小さなねじが床に散乱し、集めて分類する苦勞話で応酬し双方譲りません。でも、どちらも社員や家族に怪我がなくて何よりだったと意気投合しています。こうやって苦勞自慢をできるのは、ほんとうに取り

戻せないものをなくしていない幸せがあったからこそです。

6月、ご縁があり被災地熊本に応援診療に行きました。伺った熊本市内は道路や建物のひび割れは数知れず、大雨に打たれた屋根瓦も剥がれ落ち、あの熊本城まで同じような有様でした。つくづくこの世の無常を感じるものですが、壊れたものも常であるはずはなく、また回復に向かって変わっていきます。本来僕たちの役割は、震災に遭われた不幸せをなるべく小さくすることだったと思います。でも避難所ではもう、屋間は被災した自宅に戻り、夜はまた集まって眠るという状況で、物質的な喪失という不幸は

大きくなく、むしろ生きているという安堵を感じるものでした。

「厚き雲 揺れる大地の狭間にも 小さな幸は 育ち始めぬ」





### 精神科医 尾林 誉史

今回の震災に際し、長崎DPATの一員として活動する機会を得ました。報告も兼ね、感想文という形で綴らせていただきます。

震災発生より約二か月が経過していたこともあり、避難者の数は予想に比して多くはありませんでした。退去に至らない方々を分類すると、1.知的障害や発達障害を抱えるご家庭2.パーソナリティに問題を抱える方3.生活環境上入居を継続する方が望ましい方の比率が高く、即ち、日常的に精神科医療を必要とされている方への対応が強

く求められたように感じました。日頃の診療では十分な時間が割れない方、(知的障害やASD(自閉症スペクトラム)など)そもそも薬物治療の適応にない方など、精神支持的な対応を必要とされている方々が、震災を契機に、奇しくも浮かび上がってきたような印象を受けました。また、看護師を中心に、支援者支援をされている方々の疲労の高まりも象徴的でした。支援者支援に関する具体的なフローは確立されておらず、各施設の巡回時に、労いの言葉を意識的におかけすることで、皆さんの苦労の軽減の

みならず、円滑な情報収集にも役立つものと痛感させられました。



### 看護師 中村 田

この度の熊本地震に際して、第9班として「災害派遣精神医療チームDPAT(以下DPAT)」に参加させて頂きました。DPATとは(Disaster Psychiatric Assistance Team/ディーパット)、自然災害、航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後に被災者及び支援者に対して「精神科医療及び精神保健活動の支援」を行うための専門的な精神医療チームのことです。発災当初は倒壊の危険のある精神科病院の入院患者を、他の病院へ転院させるための支援などを行い、その後は避難所等にいる被災者や支援者のこころのケアなどを行います。

私達が派遣された6月後半時点で、熊本市内全区域で避難所は約40~50カ所、多い避難所では、約200人前後の登録がありました。到着初日、2日目はオンコール対応で、被災地の視察、前DPAT(8班)からの引き継ぎ、各避難所からのフォロー者リストから情報収集整理を主として行いました。3日目からは各区役所で、避難所訪問先を決定し情報収集を行い、精神科医師、看護師、保健師、県庁職員チームで訪問をしました。

避難所は、計18カ所訪問しました。私の役割は、与えられたフォロー者リストの情報収集、追加、修正を行うことでした。フォ

ロー者の方には、発達障害や知的障害を抱えている人が多く、注意欠陥多動性障害の方も数名おられました。認知症に関しては、熊本市が迅速に入所・入院の対応を済ませていました。診察や面談が必要な避難者には、精神科医師が診察を行い、看護師や保健師は帯同し直接的な看護行為は行いませんでしたが、それでも付き添い傾聴することでお礼の言葉を頂き、笑顔をみることができました。

この経験をさせて頂き、個人としても震災に対して長期にわたる支援や関わりが必要だと思いました。また、さらに看護師としても成長していきたいと思えます。

# 入院について



## 洗濯

- リース
- 業者代行

医療保険対象外の費用についてご説明いたします。

## おむつ代

当院では、委員会で協議し厳選したおむつを使用し、安価での提供に努めております。

ご自身または、ご家族が遠方などで洗濯をすることが難しい場合は業者による洗濯代行とリース商品のご利用も可能です。(料金については入院のしおりを参照下さい)

## テレビリース

テレビリースは1日81円です。



## 個室利用料

当院には4タイプ計77室をご用意しております。

個室タイプ	1日の料金 (税別)	設備 (冷暖房、テレビ、テーブル、イスは全てに設置)
Aタイプ (14室)	1,600円	ユニットバスまたはユニットシャワー、トイレ
Bタイプ (6室)	1,300円	トイレ、洗面
Cタイプ (9室)	1,100円	洗面
Dタイプ (48室)	900円	

※洗濯・TV・個室に関しては病棟にて申込みとなります。

※上記以外にも、特別メニュー食・診断書料・インフルエンザなどワクチン接種料があります。

## 医療法人厚生会 みちのおメンタルクリニック

みちのおメンタルクリニックは、「道ノ尾病院」を母体として、また、かくクリニックを引き継ぐ形で、平成19年5月1日に開院いたしました。

長崎市松山町にあり、隣接している平和公園や爆心地公園などにはたくさんの観光客が訪れています。また、交通のアクセスもよく、学生さんやお仕事をされている方でも来院しやすい環境にあります。

患者様の要望や、治療の必要性に応じて、カウンセリングやデイケア、作業療法や入院など、道ノ尾病院との連携にもスムーズな対応を心がけています。

看護師、受付ともに1人ずつという特徴を生かし、患者様一人ひとりを大事に思い、寄り添い、安心して治療していただけることをモットーに、職員間の連携も大切にしています。



〔受付時間〕 午前 11:30 まで 午後 17:30 まで

初めての方は比較的空いている日時をご案内しているため、事前にお電話をしていただき、仮予約をお取りしています。

〔お問合せ 代表：095-844-3030〕

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○（第2・第4のみ診療）
14:00～18:00	○	○	○	休診	○	休診



**Q**uestion

お薬を食後に飲むよう言われていますが、  
食事が摂れない時にはどうしたらいいですか？

**A**nswer

お薬によって対応が変わりますので、  
医師または薬剤師にご相談下さい。

お薬を「食後」にのむ理由としてお薬により胃が荒れないため、お薬の効果をしっかり出すためなどがあります。また、規則正しい食生活は日常生活を送るうえで欠かせないものですが、どうしても摂れない場合もあると思います。そういう時のお薬の服用のしかたについて一度医師・薬剤師にご相談されてみてはいかがでしょうか。

なお、食事と関連したお薬の用法（服用のタイミング）については以下のようなものがあります。

- ・食 後：食事の後30分以内に（服用）
- ・食 前：食事の前30分前までに（服用）
- ・食 間：食事から2時間ほど後の空腹時に（服用）  
（「食事中」に服用するという意味ではありません！！）
- ・食直前：食事をはじめ直前に（服用）（例：一部の糖尿病治療薬など）
- ・食直後：食事が終わった直後に（服用）（例：一部の脂質異常症治療薬など）

お薬は1日にのむ量、回数、そして用法を守って毎日規則正しく服用することが重要です。

「いさはやミニ・トライアスロン・リレー大会」に  
多職種チームで今年も出場しました!!



気温32度とまだまだ残暑とは言い辛い気候の中、9月11日(日)に諫早市で開催された「いさはやミニ・トライアスロン・リレー大会」に「道ノ尾おやじファイト」チームは“冥土の土産にがんばります”をスローガンに掲げ参加しました。

道ノ尾病院の職員で構成されたチームで出場するのは3度目になり、今年度は平均年齢51.3歳の若々しい面々で襷を繋ぎました。メンバーは、1区ラン4kmエース水溜くん(看護部)、2区水泳200mは“筋トレ大好き”山口くん(施設管理課)、3区ラン4.4kmは中尾(経理)、4区自転車8kmは身長2m近くもある圍くん(看護部)、5区ラン3.35kmは最年長で65歳の“ちょい悪おやじ”宮本さん(看護部)、最終6区ガタスキー&ランは“ガタを見ながら生まれてきた佐賀鹿島出身の温泉大好き”中尾さん(ふれあい)でという多職種で構成されています。

干拓の里を中心に、80チームの参加で行われた競技でしたが、みなさんのがんばりやそれぞれの家族の理解があり74位という立派な成績を収めることができました!特にアンカーでガタスキーを任された中尾さんは競技中ほとんどバテていました。「来年やることはもうない」と言っていました。何はともあれ、みなさん怪我もなく無事に完走し、冥土の土産となった人は残念ながら誰一人いませんでした。

最後に、競技への参加を快諾頂き、また応援頂いた職員方々に厚く御礼申し上げます。来年は、TOP10(下から数えて)を抜け出せるようにがんばります!

(経理 中尾)

長崎くんち

平成 28 年 10 月 7.8.9 日

上町ココロデショに挑戦



約2年間の稽古を行い、くんち3日間に臨みました。初奉納ということもあり、緊張しましたが沢山の方から支えられ、病院職員からも応援を頂き、いつも以上の演技を行うことができました。今回のくんちの終わりと共に、7年後のくんちへのスタートはきられました。今後よりよい奉納が出来るよう頑張っていきたいと思えます。応援ありがとうございました。

(看護部 久保、山本)



医療法人厚生会 道ノ尾病院

- みちのおメンタルクリニック
- 就労支援事業所 ワークステーション かいこう
- 宿泊型自立訓練事業所 ふれあい
- 訪問看護ステーション すみ香
- ヘルパーステーション にじいろ
- 相談支援事業所 にじいろ
- サービス付き高齢者向け住宅 れいんぼうハウス滑石

社会福祉法人新生会

- 特別養護老人ホーム 望星荘
- 障害者支援施設 虹が丘学園

【医療法人厚生会 道ノ尾病院ホームページ】

<http://www.michinoo.or.jp>

道ノ尾病院

検索



モバイルの方



スマートフォンの方

